

インタビュー

教科書へのデジタル活用で広がる

『新しい学びのカタチ』

これからの授業は
どう変わる？

ポイント解説

アジア地域最大規模の
国際総合スポーツ大会・
障害者スポーツ大会を
応援しよう！

現場から

“大学の知”を社会課題へ
—COI-NEXT—



2030年度から、教科書のかたちに新たな選択肢が加わります。目指しているのは、教科書をすべてデジタルにすることではありません。紙とデジタル、それぞれの良さを生かしながら、子供たちにとってより「分かりやすい」「学びやすい」教科書をつくることが目的です。2026年6月の「学校教育法等の一部を改正する法律」の成立を受け、これから教科書の選択肢がどのように広がり、子供たちの学びはどう変わっていくのでしょうか。初等中等教育局の後藤教至教科書課長に聞きました。

後藤教至 初等中等教育局 教科書課長

これからの授業はどう変わる？

教科書へのデジタル活用で広がる『新しい学びのカタチ』

今後、デジタルを活用した正規の教科書も制作可能となる

——これから教科書はどのように変わるのでしょうか。

今回の改正は、子供たちがより学びやすい教科書をつくるための選択肢を広げるものです。これまで教科書は法律上“紙に印刷され、それを束ねたもの”でした。2021年度から紙の教科書の内容をそのまま電子化した学習者用デジタル教科書（以下、旧デジタル教科書）が小中学校に導入されていますが、これは法律上の正式な教科書ではなく、紙の教科書の代わりに使う教材という位置づけでした。しかし、法改正により教科書概念が「デジタルな形態を含む新たな教科書」と変

わったことで、紙の教科書に加えて、紙とデジタルを組み合わせたハイブリッド型、完全デジタル型も教科書として認められます。教科書発行者（以下、発行者）は学年・教科に応じて最適な形態を選んで制作し、文部科学省の検定や教育委員会による採択を経て、これまでと同じように子供たちに無償で提供され、授業で使われます。（図表1）

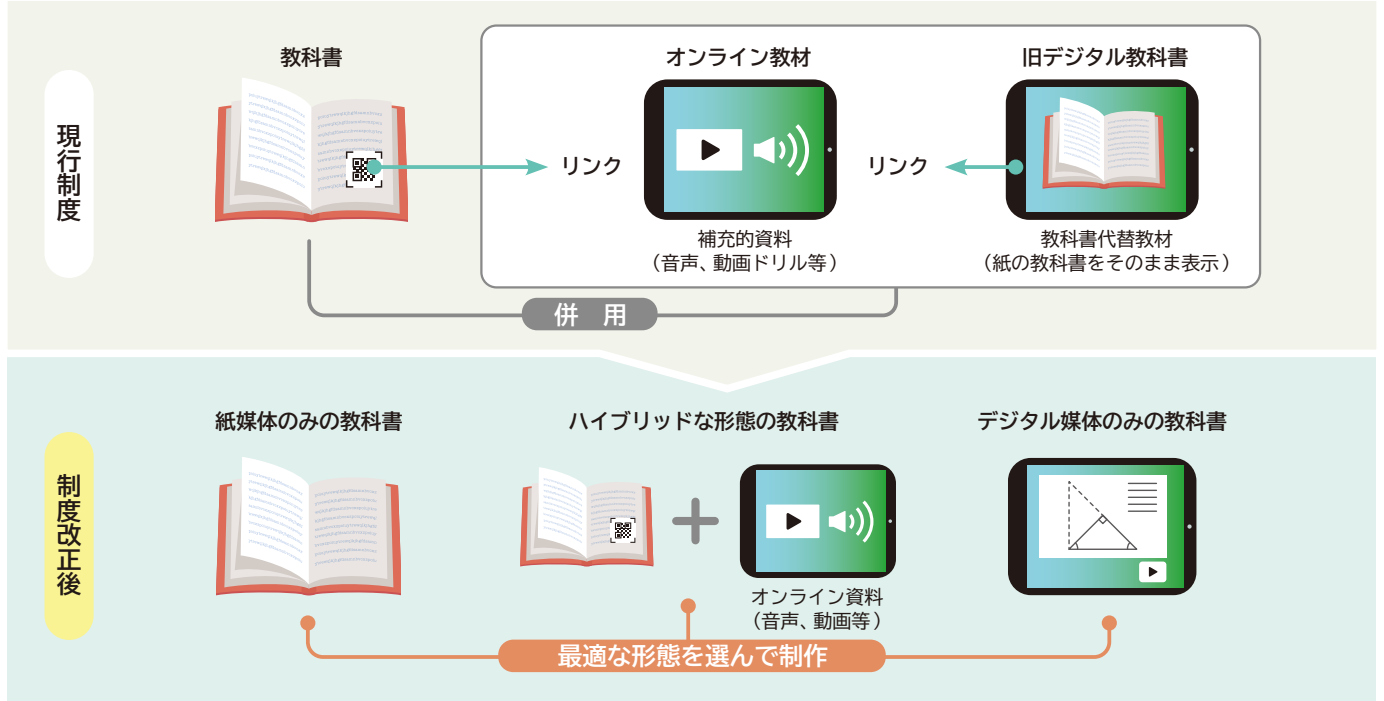
——デジタル活用で動画や音声が使え、子供たちの学びはどう変わりますか？

デジタル技術を織り交ぜることで、内容がより分かりやすくなり、児童生徒の学びが促進されます。例えば、理科や化学の実験手順は従来の教科書では文章や写真で説明するしかありませんでしたが、動画

を活用すれば理解度が深まります。英語もネイティブ音声を組み込んでおけば繰り返し聞くことができます。デジタルには紙の教科書で今一つ分かりにくかったところを突破していく力があり、それがすべての学校で使用する義務のある教科書の中に搭載されていくことになります。

毎年実施している全国学力・学習状況調査を分析すると、「授業内容の理解が高い」「主体的な学びにしっかり取り組んでいる」「対話的な学びにしっかり参画している」「その教科の勉強が好きだ」といった指標が学力との相関が高い。そして旧デジタル教科書の実証研究を見ると、その使用頻度が多い児童生徒ほど、これら4つの指標が高い。例えば、主体的な学びで言うと、教

図表 1 教科書制度の見直しの方向性



教科書に書き込みをしながら学んでいくことが学力向上の大きなポイントですが、紙の教科書では書き込んだ文字や線を消そうとすると破れたりもします。しかし、タブレットであればアンダーラインや書き込みも躊躇なく行え、消去も簡単です。そうしたデジタルの特性が4つの指標を高め、学力向上につながると考えられます。

——海外では、デジタルを使った学びはどのように進んでいますか？

日本のように学校で使用する教科書を国が検定している事例は少なく、多くは教材の選択を現場の裁量に委ねています。ですから、諸外国の状況がそのまま当てはまるとも言えませんが、教科書や教材にデジタルを活用する国は増えています。

例えば、韓国やICT化で有名なエストニアは積極的に導入しています。両国はPISA（OECD生徒の学習到達度調査）やTIMSS（国際数学・理科教育動向調査）といった国際学力調査でトップクラスの

成績をおさめています。IT先進国のスウェーデンも2010年代から教育現場のデジタル化に取り組んだ結果、国際学力調査で順位を上げました。ただ、直近のPISA2022では順位が落ちています。これをとらえて「デジタル化が悪影響を及ぼした」との報道も聞かれますが、PISA2022でスコアが大きく下落したのはOECD平均も同様であり、教育のデジタル化と学力低下との関係は慎重に見る必要があると考えています。また、直近のスウェーデンの政策動向について、OECDによる調査では、生徒の年齢等に応じたデジタル活用のバランスを追求した改革だと分析されていることも踏まえる必要があります。

2030年度実施を目指してルールづくりが進行中

——「新しい教科書」はいつから使えるようになるのでしょうか？

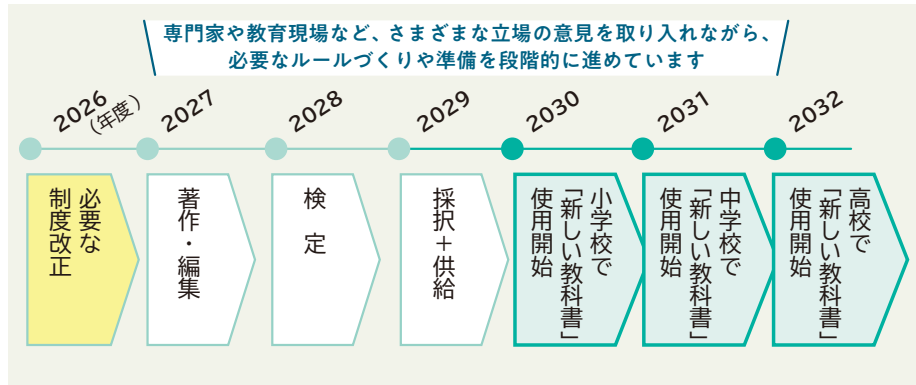
2030年度の新しい学習指導要領実施に合わせて順次導入しようと考えています。そうすると、2030年度実施の小学校の教科書の場合、その前年の29年度には教育委員会によるデジタルも含む新しい教科書の採択、その前年度の28年度に文部科学省によるデジタル部分も含めた検定、更にその前年度の27年度に発行者による著作編集が必要となります。このプロセスが円滑に進むよう、今年度中に制作・検定・採択・使用にかかる基本的な考え方を、大臣指針や新たな検定の仕組みとしてお示しするべく検討中です。（図表2）

——デジタル教科書を、低学年の子どもたちにも使用させるのでしょうか？

いいえ、すべての教科書をデジタルにするわけではありません。

児童生徒の発達段階、あるいは教科ごとにデジタルの馴染み方には違いがあります。小学校に入ったばかりの児童にいきなり完全デジタルの教科書を渡してもタブレット操作などに慣れていません。教科の違いに

図表2 「デジタル形態を含む新たな教科書」への移行スケジュール



ついても、英語のような語学系、美術や音楽など実技系の教科はデジタルが活躍する場面は多そうです。一方、国語や古文などじっくり読み込んで考えていくといった教科は紙の方が適していると思われます。そこで、当面は小4以下では完全デジタル型教科書を認めず、小5以上でも紙の形で学ぶことの重要性が高いと思われる国語や社会、道徳などは完全デジタル型教科書を認めないという方向で考えています。

1人1台端末の活用が増えることに伴う健康上の留意点など、広く周知が必要な事項は他にも様々あります。教科書をつくる側と採択する側、使用する側の橋渡しがうまくできるように、今年の秋ぐらいまでに大臣指針をまとめ、提示したいと思っています。

また、紙の教科書では学習が困難な児童生徒については、個々の状況に応じた対応も重要と認識しています。音声読み上げ、ハイライト表示など、より高いアクセシビリティ機能を備えたデジタル版の教科書を選択して使えるような仕組みも準備したいと考えております。

——関係者からの「検定作業が増大するのは？」という懸念の声はありませんか？

学習指導要領を議論する中央教育審議会から授業の時間数に対して教

科書の内容が多すぎるとの指摘もあり、教科書自体をスマートにする必要があると考えています。加えて、教科書の一部としてデジタルコンテンツを盛り込めるとなると発行者が大量のコンテンツを入れなともかぎりません。例えば、デジタル部分の掲載量など、一定の枠組みを示すことで適正化を図りたいと考えています。

各段階の戸惑いを踏まえ、新しい教科書への円滑な移行を目指す

——教科書の制作・発行、採択、使用を行う各関係者は、今回の制度改正をどのように捉えているのでしょうか。

デジタルとの組み合わせやフルデジタルの教科書といったバリエーションが増えるわけで、これは選択肢が増えたということです。その一方、「何が一番良いのか」を各関係者が迷うところでもあります。いかに無駄なく、スムーズに新たな教科書に移行していけるかが課題であると考えています。

また、発行者には、同じ内容の教科書を「紙」「ハイブリッド」「完全デジタル」の3形態でつくっていたきたいということではありません。この教科にはどの形態が最適な

のか、より良い教科書にするための視点で適切な形態を判断して、教科書制作に取り組んでいただければと思います。

なお、採択側へのアンケートでは「ハイブリッドな形態が一番使いやすい、望まれる」という声が一番多く聞かれます。発行者もそうした意向を汲んで、まずは紙をベースとしつつ、デジタルのほうに分かりやすいところを二次元コードなどで紐づけていく教科書が多くなっていくのではないかと考えています。(図表3)

——先生たちは、新しい教科書をどう受け止めているのでしょうか？

教科書を採択する教育委員会や学校に対する意向調査も行っています。それを踏まえて大臣指針の策定にあたっています。

また、当初、発行者各社が同じ内容で3形態の教科書をつくれば採択の負担が一気に増えるという誤解も見られました。しかし、発行者も採択される可能性が高い形態を考えて制作するので、採択対象の教科書の数が一気に増えることにはならないと思います。

教職員の方は新しい教科書を使って授業される最重要な関係者です。ことに、これまでの旧デジタル教科書は代替教材でしたから、必ずしも使わなくてもよかったわけです。二次元コード先のコンテンツについても教材扱いでしたので、「デジタルが苦手だから」と使用しなかったとしても違反ではありませんでした。ところが、デジタル部分を含めて教科書ということになると法律上の使用義務があり、教科書のデジタル部分も活用して授業を行うことが求められます。

文部科学省は、実証事業などを踏まえてデジタルを効果的に活用した授業の実践事例も公開しており、

2030年度に向けてさらに事例を積み上げて現場の先生方に参考にしていただきたいと思います。加えて、デジタル活用についての研修など新しい教科書を使った授業実践に対するサポートにも力を入れていきます。

——保護者から「目への影響が心配」「デジタル漬けにならないか」といった声も挙がっているようですが？

アンケートなどから推察すると、懸念の一つが視力低下など健康への影響です。教科書のデジタル活用が本格化すれば、タブレット画面を見る頻度は確実に増えます。私たちも授業で画面を見続けるような学び方は適切でないと考えており、大臣指針をつくる議論にはメンバーに医師も入っていただいています。「30分に1回は目を離す」「30cm以上離して見る」といった健康面に配慮したルールづくりを検討しています。

また、デジタル漬けにならないかという不安もあります。これは家庭

でのデジタルデバイスの使用など学校外の影響が大きく、教科書へのデジタル活用とは別の話ですが、次期学習指導要領で発達段階に応じたデジタルデバイスやSNSの扱いなど情報活用能力やメディアリテラシーの向上につながる教育の強化を図っていきたいと考えています。

——最後に、「新しい教科書」の本格活用について、一番伝えたいことは？

今使用している紙の教科書をすべてデジタルに移行しようと考えているわけではありません。大事なのは、児童生徒の力をどれだけ引き上げられるかということで、学校教育の中心である教科書の内容を分かりやすくする、あるいは学びやすくするためのデジタル活用です。このことはご理解をいただきたいと思います。

また、新たな教科書の導入後も経過観察を続けます。新制度を導入したから終わりということではなく、教育面の効果や健康、生活習慣など

への影響を継続的に見ながら、より良い教科書を求めて、デジタル活用の取り組みを進めていきたいと考えています。

今後、AIをはじめ新たなデジタルテクノロジーの教科書への活用なども、当然、課題として出てきます。現時点では教科書へのAI導入は整理が必要な課題が多いと考えていますが、実証研究などを進めながらその可能性を探っていくということになると思われます。そうした技術進歩も見据えつつ、デジタルを含む新しい教科書の活用を円滑に進めていきたいと思っています。



デジタル活用の
実践事例



「デジタル形態を含む
新たな教科書」について

図表3 教科書採択のポイント

採択 Point

1 教科書づくりに、3つのバリエーションができます！

教科書 1 紙のみ



二次元コードもなし

教科書 2 ハイブリッド



紙とデジタルを組み
合わせた教科書

教科書 3 デジタルのみ



教科特性・発達段階
を踏まえて判断



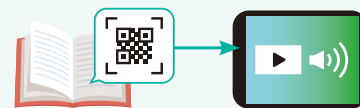
「同じ内容の教科書が3つの形態で発行され、教科書が3倍になる」わけではありません。

文部科学大臣の示す指針をもとに、各教科書発行者が①～③の適切な形態を判断して教科書を制作します！

採択 Point

2 二次元コード先のデジタルコンテンツも精選します！

今まで



二次元コード先（動画・音声等）は「教材」
→**検定対象ではない**

※デジタルコンテンツが急増し、教科書採択の負担となっている実態

法改正後

これから

二次元コード先（動画・音声等）も「教科書」
→**検定の対象**

・教科書として必要な内容に精選
・質の保証を実現

愛知・
名古屋で
開催！

アジア地域最大規模の 国際総合スポーツ大会・ 障害者スポーツ大会を 応援しよう！

今月、愛知県・名古屋市を舞台に、4年に1度のアジア最大のスポーツの祭典「アジア競技大会」と「アジアパラ競技大会」が開催されます。世界レベルのプレーや選手たちの挑戦する姿を間近で体感できるまたとない機会です。愛知・名古屋からアジア、そして世界へと広がる感動と交流の輪を、ぜひ多くの皆さんに感じていただきたいと思います。

愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会とは——

アジア競技大会は45の国と地域からトップアスリートが集う国際総合競技大会で、日本では1994年の広島大会以来32年ぶり3度目の開催です。また、アジアパラ競技大会は日本では初めての開催となり、多くの注目を集めています。

大会期間中は、アジア各国・地域から集まる選手たちが熱戦を繰り広げるだけでなく、多様な文化や価値観に触れられる国際交流の場にもなります。スポーツを通じて国や地域を越えたつながりが生まれ、共生社会や多様性への理解を深める貴重な機会となることが期待されています。

日本はアジア競技大会において過去に多くのメダルを獲得しており、アジアを代表するスポーツ強豪国の一つとして活躍してきました。

また、アジアパラ競技大会でも数多くの選手が優秀な成績を収め、日本の高い競技力を世界に示しています。本年の愛知・名古屋2026大会では、自国開催の後押しを受け、さらなる活躍が期待されます。アスリートたちがメダル獲得を目指して挑む姿に注目し、ぜひ日本代表選手への熱い応援をお願いします。



●過去の大会におけるメダル獲得数			金	銀	銅	合計
2023年 杭州大会	アジア選手団	1,138人	52	67	69	188
	アジアパラ選手団	430人	42	49	59	150
2018年 ジャカルタ大会	アジア選手団	1,096人	75	56	74	205
	アジアパラ選手団	484人	45	70	83	198
2014年 仁川大会	アジア選手団	1,068人	47	77	77	201
	アジアパラ選手団	476人	38	49	56	143

スポーツ庁の取組

昨年秋の臨時国会では、愛知・名古屋2026大会の開催を支援するための特別措置法が成立し、国として136億円の経費が措置されました。スポーツ庁は、この予算を活用しながら大会の成功に向けた支援を進めています。

また、日本選手団への支援として、ハイパフォーマンス・サポート事業を通じてスポーツ医・科学、情報等を活用した現地サポート拠点を設置し、選手が最高のパフォーマンスを発揮できる環境整備に取り組んでいます。

さらに、大会の機運醸成にも力を入れており、全国各地のショッピングモールでPRブースを出展し、大会の魅力や見どころを広く発信しています。スポーツ庁は、大会運営の支援から選手強化、広報活動まで幅広い取組を通じて、アジア・アジアパラ競技大会の成功を後押ししています。

文化 交流

ONE ASIA WORLD

アジア競技大会期間中(9/19～10/4)、名古屋・久屋大通公園では、公式ファンゾーン「ONE ASIA WORLD」が開催されます。ここでは、スポーツの感動を楽しむだけでなく、アジア各国・地域の文化や食、音楽などの魅力を体験することができます。大会を盛り上げるイベントや交流企画も予定されており、誰でも気軽に参加できます。

会場には各国・地域のグルメや文化を紹介するブースが並び、スポーツをきっかけにアジアの多様な魅力に触れることができます。



※図はイメージです。実際の内容・仕様とは異なる場合があります。



20th Asian Games
Aichi-Nagoya 2026

第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)
[2026年9月19日(土)~10月4日(日)]



アジア競技大会
オフィシャル HP

注目
競技

卓球



卓球はアジア勢が圧倒的な強さを誇る競技の一つです。中国、日本、韓国など世界トップ選手が激突するアジア競技大会では、オリンピックさながらのハイレベルな熱戦が繰り広げられます。一瞬の判断で勝負が決まるスピード感あふれるプレーは、観客を魅了します。



セパタクローは、足や頭を使ってボールを打ち合う東南アジア発祥のスポーツで、オリンピックでは見ることができない競技です。まるで空中を舞うような豪快なジャンプやアクロバティックなアタックは迫力満点。アジア競技大会だからこそ味わえるスピード感と躍動感あふれるプレーが大きな見どころです。

セ
パ
タ
ク
ロ
ー

サーフィン



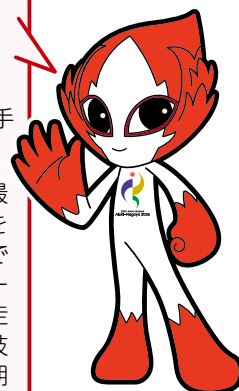
© ISA Jerisson Barboza

注目は、本大会の優勝者にロサンゼルス 2028 オリンピックの出場権が与えられること。アジア最高峰の選手たちが集い、ロサンゼルス 2028 オリンピックへの切符を懸けて激突します。東京2020 オリンピック男子銀メダリストの五十嵐カノア選手、昨年度ワールドツアーでも活躍した期待の若手女子選手・池田美来選手ら世界トップクラスの選手の出場も予定されており、オリンピックにつながる重要な一戦として大きな注目を集めています。

注目
選手

中島佑気ジョセフ選手
(陸上・400m)

世界選手権では日本勢最高順位となる6位入賞を果たすなど、世界の舞台でも活躍しています。スピードと力強さを兼ね備えた走りが持ち味で、アジア競技大会では金メダル獲得が期待される注目選手の一人です。日本代表のエースとして挑む熱いレースにぜひご注目ください。



第20回
アジア競技大会公式
マスコットキャラクター
「ホノホン」

エンブレム



スポーツのもつ躍動感を自由な曲線で描いています。さん然と輝く太陽(OCAシンボル)と、紫・金・緑で作り出される中央の直線は、人々が「ひとつ」に集い、未来へ向かう様を表しています。愛知・名古屋らしく、愛知県の花「カキツバタ」の紫と、「名古屋城のしゃちほこ」の金、そして、愛知万博、COP10、ESD ユネスコ世界会議を通じて培われた環境への想いを表す緑で彩っています。

また、紫と中央の直線は「アジア (Asia)」と「愛知 (Aichi)」のAを、紫と金は「名古屋 (Nagoya)」のNをかたどっています。

スローガン

IMAGINE ONE ASIA
ここで、ひとつに。

スポーツには、言語や文化、国境を越えて、人々を結びつける力があります。愛知・名古屋2026大会では、スポーツが持つこの力を活かし、さらには、多様性が進む社会に生きる私たちひとりひとりが、それぞれの「ONE ASIA」を想像(IMAGINE)することで、絆を深め、未来へ向かって進んでいけるようにとの願いを込めたものです。

また、選手、ボランティア、観客など大会に関わる人々が、様々な時間や空間、体験や感動を共有し、ひとつになっていこうという思いが込められています。



5th Asian Para Games
Aichi-Nagoya 2026

愛知・名古屋2026アジアパラ競技大会
[2026年10月18日(日)~24日(土)]



アジアパラ競技大会
オフィシャルHP

注目
競技

ボッチャ



白い目標球(ジャックボール)に向かって赤球・青球を投げたり転がしたりし、その近さを競うパラスポーツです。シンプルなルールながら、高度な戦術と正確なコントロールが求められ、最後の一投まで勝敗が分からない緊張感が大きな魅力です。

日本は世界屈指のボッチャ強豪国として知られています。東京2020パラリンピックでは杉村英孝選手が個人で金メダルを獲得し、さらに団体に銅メダルを獲得しました。また、パリ2024パラリンピックでも遠藤裕美選手が個人で銅メダル、団体でも銅メダルを獲得するなど、国際大会で継続して結果を残しています。

アジア勢のレベルが非常に高く、世界ランキング上位国が数多く集まる競技。日本代表が強豪国と繰り広げる熱戦や、わずか数ミリを争う緻密な駆け引きは必見です。

©MegumiMasuda/JWRF



車いすラグビー

車いすラグビーは、車いす同士が激しくぶつかり合う迫力満点の競技です。日本代表はパリ2024パラリンピックで悲願の金メダルを獲得し、近年、国内で開催された国際大会でも優勝を果たすなど絶対的な強さを見せています。近年は車いすラグビーを題材としたドラマなどをきっかけに注目も高まっており、アジアパラ競技大会では世界トップレベルの熱い戦いを間近で観戦できる絶好の機会です。

応援IDに登録して大会を
盛り上げよう！



応援ID

応援IDは、出場選手や競技の見どころ、大会関連イベント、グッズ情報など、愛知・名古屋2026大会の最新情報を受け取ることができる大会オリジナルのIDです。大会に関わる多くの人が「応援」をテーマにつなぎ、選手たちを後押しする仕組みとして創設されました。

また、観戦チケットの購入には応援IDの登録が必要となります。大会をより身近に感じ、最新情報をいち早く受け取ることができる絶好の機会です。



注目
選手

小田凱人選手
(車いすテニス)



第5回アジアパラ競技大会公式マスコットキャラクター「ウズミン」

愛知県一宮市出身の小田凱人選手は、世界の車いすテニス界をけん引する若きトップアスリートです。パリ2024パラリンピックでは男子シングルスで金メダルを獲得し、数々の最年少記録を打ち立ててきました。現在も世界トップレベルで活躍を続けており、今大会も金メダル最有力候補として大きな期待が寄せられています。地元・愛知での凱旋試合となる今大会。世界最高峰のプレーと、最後まで諦めない力強い姿にぜひ注目してください。



エンブレム



5th Asian Para Games
Aichi-Nagoya 2026

アジア競技大会エンブレムデザインの構成要素を使うことで、アジア競技大会との連携を図り、パラアスリートの方々の燃え盛る熱きところを温かみのある色彩で表現しました。愛知・名古屋大会から今後のアジアパラ競技大会へ絶えることなく熱きところが繋がっていく持続性も表しています。

スローガン

IMAGINE ONE HEART
こころを、ひとつに。

競技場に立つパラアスリートたち、ひとりひとりの熱い想いを、私たちは想像できること。また、想像してみようと促すことで、誰もがこころをひとつにする大会となるように言葉を開発設計しました。アジア競技大会 愛知・名古屋「IMAGINE ONE ASIA ここで、ひとつに。」と対になり、その意味をさらに深める言葉となっています。



ミラクル
現場から

未来の暮らしは地域から生まれる



"大学の知"を社会課題へ -COI-NEXT-

地域・大学・企業がつくる未来のかたち

卵アレルギーの人も食べられる卵の研究、捨てられるはずだったアルミを地域で循環させる取組、アートを通じて孤独や孤立を防ぐ活動一。

科学技術振興機構 (JST) が推進する「共創の場形成支援プログラム (COI-NEXT)」では、私たちの暮らしと深く関わる様々な挑戦が全国で進められています。こうした課題の解決に向けて、大学、企業、自治体がそれぞれの強みを持ち寄り、ともに良い社会をつくる「産学官共創」が進められています。



COI-NEXTってどんな取組？

COI-NEXT は、大学を中心に企業や自治体、市民など様々な人々が集まり、「こんな社会になったらいい」という未来像の実現に向けて必要な研究開発を進め、社会実装を目指す取組です。研究を進めるだけでなく、その成果を地域や暮らしに活かす仕組みづくりにも力を入れています。

COI-NEXT が目指しているのは、新しい技術やサービスを生み出すことだけではありません。大学と企業、自治体、市民が地域や社会の課題に向き合うことで、新たなアイデアやつながりが生まれ、人々の行動にも変化が生まれます。こうした取組が広がることで、地域や社会の課題解決を進め、より暮らしやすい社会の実現を目指しています。

全国40カ所で広がる共創の場

COI-NEXTには、健康、環境・エネルギー、食や農業、地域活性化など、様々なテーマに取り組む拠点があります。大学を中心に、1,400を超える参画機関(企業や自治体)の他、市民が協力しながら、それぞれの地域ならではの課題の解決や、新たな

アイデアの実現に挑戦しています。

この取組は、北海道から沖縄まで各地で進められており、大学で生まれた研究や技術が地域や暮らしに活かされています。皆さんの身近な地域・大学でも、COI-NEXTに取り組む拠点があるかもしれません。

暮らしを変える、 身近な研究のチカラ

今回はその中から、「健康」をテーマに地域の未来づくりに挑む弘前大

学の取組をご紹介します。日本一の短命県と呼ばれてきた青森県。その課題に向き合うため、弘前大学では「超多項目健診」を基盤に、健康長寿社会の実現を目指した研究と社会実装を進めています。

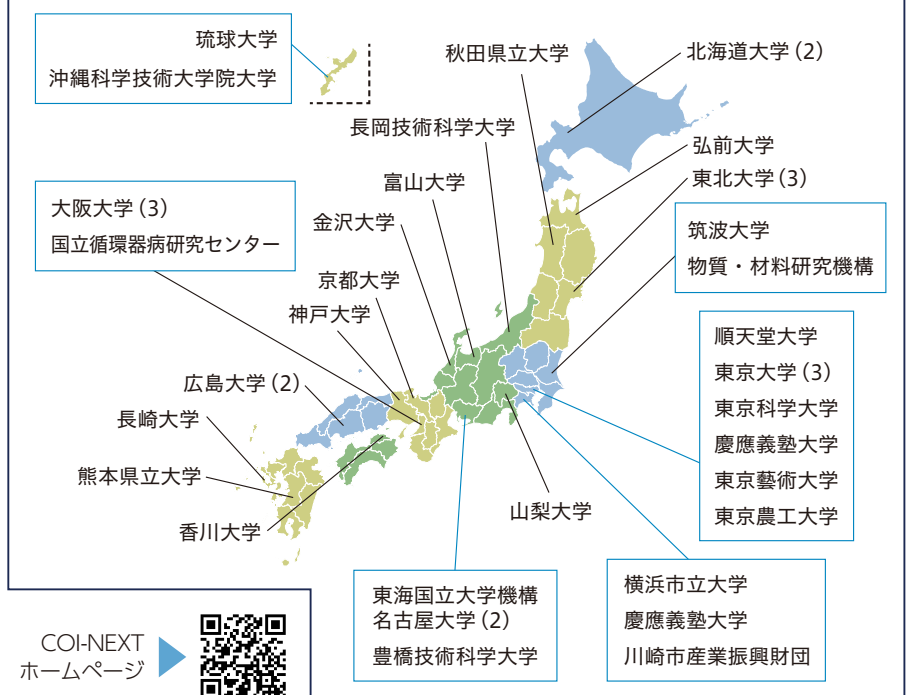
COI-NEXTを もっと知りたい方！

note で様々な
拠点の実例を
紹介していきます



COI-NEXT 拠点マップ (全40拠点)

() 内は拠点数





拠点実例

青森から全国へ！

“大学の知”でWell-beingを実現

忙しい毎日の中で後回しになりがちな健康問題。手をかざしただけで野菜摂取量がわかる、スマートフォンで内臓脂肪が測れるなど、短命県返上を目指す弘前大学の取組は、楽しみながら健康意識を高められる仕組みが市民の暮らしに定着し、確かな変化をもたらしています。健康と地域経済が育つ持続可能な Well-being の未来像について、弘前大学の村下公一副学長にお話を伺いました。



弘前大学副学長・教授／
グローバル Well-being
総合研究所 (IGWS) 副所長／
健康未来イノベーション
研究機構長
村下公一 氏

—「人生100年時代」と言われる中、健康寿命を延ばすことが注目されています。弘前大学では「Well-being な地域社会モデル」の実現を目指されていますが、なぜ、この取組を実施することになったのか、きっかけを教えてください。

弘前大学がある青森県は、厚生労働省が5年ごとに発表する都道府県別平均寿命ランキングで長年に渡って男女ともに最下位の状態が続き、「短命県」と言われてきました。

そこで2005年から短命県の返上を旗印に、よりアクティブで充実した人生を全うすることを目指す「Well-being な地域社会づくり」に乗り出しました。

—中核的な取組が「岩木健康増進プロジェクト健診(岩木健診)」ですね。

弘前市岩木地区に医師や看護師を派遣し、10日間で、住民の健診を

行います。対象は20～94歳で、通常の健康診断で行われる体重や血圧の測定だけでなく、ライフスタイルや経済環境などまで含めた検査は約3000項目に及びます。そのため、検査時間は早い人で4～5時間、長い人だと10時間ほどかかります。

2026年度の参加者は合計1340人となりました。健診を22年間実施してきたことで、3万人以上の超多項目の健康データが蓄積され、弘前市にしか存在しない唯一無二の健康ビッグデータとして注目を集めています。



岩木健診の様子

—文部科学省の革新的イノベーション創出プログラム(COI STREAM^(注1))、共創の場形成支援プログラム(COI-NEXT)に採択されたことの意義をどのように捉えていますか。

資金面での援助もさることながら、岩木健診に対する住民の皆さんの意識が変わったことに大きな意義があると思っています。

私たちが考える Well-being な地域社会は、ただ健康になればいいわけではありません。人々を健康にすると同時に、健康ビッグデータを活用した新たな事業の創出を後押しし、健康関連の活動を盛り上げることで、地域経済の活性化も図っていきます。そこで様々な分野の企業に参画してもらい、研究成果の社会実装まで一気通貫で進める点に大きな特徴があります。

COI STREAM/COI-NEXT への採択で、最先端の研究として高度な

平均寿命
都道府県ランキング [男性] (歳)

	1965年	2005年	2020年
1	東京 69.8	長野 79.8	滋賀 82.7
	⋮		
44	岩手 65.9	高知 77.9	岩手 80.6
45	秋田 65.4	岩手 77.8	福島 80.6
46	青森 65.3	秋田 77.4	秋田 80.5
47		青森 76.3	青森 79.3

Well-being な地域社会モデルの実現(弘前大学)





取組であることのお墨付きをいただきました。その結果、約50社の企業が参画し、そのうち国内企業25社が共創研究所や共同研究講座を設置し、強固な産学官連携基盤が形成されています。

——健康づくりを進めるには、自分の健康状態に関心を持つことが大切です。どのような仕組みで健康への気づきを促しているのでしょうか。

それを実現する仕組みが「QOL(生活の質)健診」です。食生活や運動習慣などの聞き取り調査を踏まえ、「メタボリックシンドローム」「口腔保健」「ロコモティブシンドローム^{〔注2〕}」「うつ病・認知症」の4つの重要テーマを総合的に健診します。岩木健診とは異なり、健診自体は1時間で終了し、その場で「健やかカアップシート(結果表)」に示された検査結果に基づきながら健康教育を行います。納得感のある改善目標を提示することで、その後の有効的なフォローにつながっています。

弘前市では「メタボリックシンドローム予防・改善事業」を始め、その中軸となる事業がQOL健診です。駅前の商業施設でもQOL健診を行い、大勢の市民の方が気軽に健診へ参加されています。また、旧市立病院を、「健康づくりのまちなか拠点」にする改築工事が進められています。

2027年度に完成すれば新たなQOL健診の場として、健康づくりの重要なタッチポイントになるでしょう。

——現場では、楽しくQOL健診を受けられる様々な工夫をされているそうですね。

そこで役立っているのが、参画企業が具現化した社会実装です。QOL健診では野菜摂取レベルをチェックします。その際に利用する測定器が、カゴメ(株)が開発した「ベジチェック」です。手のひらを測定器に押し当て、皮膚のカロテノイド^{〔注3〕}量を測定することで野菜の摂取レベルを推定します。採血の必要はなく、30秒後には結果が出ます。

また、内臓脂肪の測定には花王(株)が開発した「NAiBO-eye」を利用します。従来はX線CTを用いて測定していましたが、専用アプリをダウンロードしたスマートフォンやタブレットで、着衣のまま正面と側面から撮影するだけで、内臓脂肪インデックス(目安値)^{〔注4〕}がわかります。こうしたツールを活用することで「今回は数値が改善しているかな」と楽しげに参加する人が増えています。

——取組は全国に広がりつつあるのでしょうか。

QOL健診の普及展開を進めていて、国内に関しては明治安田生命

保険(相)にライセンスングを行いました。同社は全国に拠点があり、約4万7000人の従業員がいます。その従業員に加えて約620万人いる契約者や、全国910の自治体と連携協定を結び、契約者でない人も対象にしたQOL健診を展開しています。

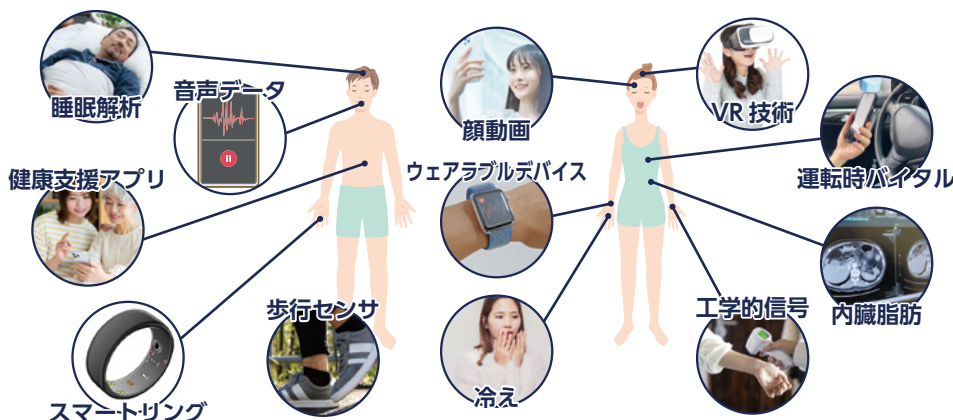
さらに、日本コープ共済生活共同組合連合会・日本生活協同組合連合会との連携も進めています。傘下の生協は全国津々浦々にあり、連携が実現すれば地方エリアにおけるQOL健診が一気に普及するでしょう。

——この取組が、私たちの生活をどのように豊かにするのでしょうか。

自分の健康に対する意識がなかなか高まらない人が少なからずいます。自分事として捉えてもらうためには、その人に合った具体的な健康改善のアドバイスを示すことが重要です。

そこで、ヘルスケア分野におけるデジタルツイン^{〔注5〕}の開発を進めています。将来の健康状態をコンピュータ上で予測し、「このままだと10年後にどんな病気のリスクが高まるか」「運動量を増やせばどう変わるか」を一人ひとりに合わせて示す仕組みです。そうしたデジタルツインの活用で、一人でも多くの方の健康に対する意識を変え、Well-beingの高い人生を送れるよう、これからも挑戦を続けていきます。

自宅でセルフモニタリングできる新 DX-QOL 健診



カゴメ(株)「ベジチェック」

〔注1〕 2013～2022年にJSTで実施したCOI-NEXTの前身事業

〔注2〕 運動器の障害により身体能力(移動機能)が低下した状態

〔注3〕 植物や藻類などが作る黄、橙、赤などの脂溶性天然色素の総称。

〔注4〕 内臓脂肪の量と機能を間接的に評価し、心血管・代謝リスクを推定するための指標

〔注5〕 現実のモノ・人・プロセスを仮想空間で再現し、データで連携させる技術

2

INTERVIEW

これからの授業はどう変わる？
教科書へのデジタル活用で広がる
『新しい学びのカタチ』

6

ポイント解説

愛知・名古屋で開催！
アジア地域最大規模の国際総合スポーツ大会・
障害者スポーツ大会を応援しよう！

9

現場から

未来の暮らしは地域から生まれる
"大学の知"を社会課題へーCOI-NEXTー
地域・大学・企業がつくる未来のかたち

読者アンケート

本誌に関するご意見・ご感想、取り上げてほしいテーマ
(施策解説、話を聞きたい人物、魅力的な地域のプロジェクト)等をお寄せください。

<https://forms.office.com/r/9DWF89Vgrv>



「ミラメク」バックナンバー

広報誌PDF版のバックナンバーもホームページからご覧いただけます。

https://www.mext.go.jp/b_menu/kouhou/index.htm



ミラメク

ミラメク - 未来の羅針盤 文部科学省 -
2026年秋号 9月18日刊行

(発行・著作)
文部科学省大臣官房政策課広報室
〒100-8959
東京都千代田区霞が関3-2-2
TEL:03-5253-4111(代表)
<https://www.mext.go.jp/>



秋号表紙

文部科学省の広報誌
『ミラメク～未来の羅針盤
文部科学省～』。
名称は、文部科学省のシン
ボルマークのモチーフである、
「未来」を指し示す羅針盤と、
英語略称 MEXT (メクスト)
からとりました。

ミラメクnote版

未来の羅針盤 文部科学省の広報 note

ミラメク



文部科学省

フォローして最新情報をチェックしてください。

ミラメクはスマートフォンでも読みやすい
noteでも記事を発信しています。
PDF版の記事に加え、note版では関連記事も
随時更新中。
ミラメクnote版でしか読めない記事も掲載して
います。

<https://mext-gov.note.jp/>

